

ハーティーちゃんの地元自慢コラム

IMOTO IMAN COLUMN

VOL.1 酒蔵編④ (50音順)



日本酒で
乾杯!

ルポライターのハーティーちゃんが紹介するシリーズ“酒蔵編”第4回です。

櫻正宗 株式会社

代表取締役社長・山邑太左衛門氏
東灘区魚崎南町5-10-1
<http://www.sakuramasamune.co.jp/>
創醸年：1625年（寛永2年）
創業年：1717年（享保2年）

自慢の一品「櫻正宗 焼稀（やきまれ）生一本」



1625年を創醸年と記し、1717年を創業とされている歴史深い櫻正宗。1840年、櫻正宗6代目当主が発見した宮水を魚崎郷に牛車で運び仕込んだお酒が評判になるのに時間はかかりませんでした。

そんな櫻正宗の自慢の一品は「櫻正宗 焼稀（やきまれ）生一本」、レギュラー酒ではありませんが山田錦を100%使用した生一本（純米酒）で山田錦のやさしい味わいと後味のすっきりしたお酒です。蔵元の理念として、

- 一、品質第一をモットーに酒造りを通じて人々に潤いを提供する。
- 一、文化の継承を基に地域社会に貢献する。



初代から「太左衛門」を襲名されてきた11代目当主 山邑太左衛門社長曰く、対話型のコミュニケーションが少なくなりつつある現代において、お酒と一緒に飲むことによって人々の潤滑油となり、文化の継承として酒造りをしていきたいと。平成10年に櫻正宗記念館「櫻宴」をオープンし、平成15年より地域の方々への感謝の念を込めて毎年11月の第1土曜日に「蔵開き」を開催し、地元地区の活性化にも取り組んでおられます。

取材の後におじゃました記念館の入口には、平成21酒造年度『全国新酒鑑評会“金賞”受賞』の垂れ幕が輝いていました。

高嶋酒類食品 株式会社

取締役会長 高嶋良平氏
東灘区御影塚町3-9-16
<http://www.konanzuke.co.jp/index.htm>
創業年：1870年（明治3年）
株式会社改組：昭和6年



自慢の一品
甲南漬・白菱本みりん

初代平介氏が明治3年に粕取り焼酎の製造で創業し、二代目平介氏が明治29年味醂の製造、明治37年奈良漬の製造を始め、昭和5年に本社が六甲山の南側に在ることにちなみ「甲南漬」を商標登録されましたが、社章の文字が斜めになっているのは、老舗を大切にしながらチャレンジし続ける企業姿勢を示しています。

同社の甲南漬は多岐に渡る銘柄のお酒の酒粕をブレンドし、又、酒粕を潤沢に使用することによりウマ口を表現し、他社製品との味の違いを出されているそうです。

お話を伺った高嶋良平会長曰く、食品製造会社として「安全・安心・美味」を基本理念とし、美味しいものを品質を変えずに作り続けていくことが重要であり、代々続いたファンのために甲南漬というブランドを守りたいと。



また、同社は創業時より地域に育てられたとの考えから、地域活動に熱心で、特に「だんじり」については地域コミュニケーションが密になり、町の活性化にも結び付くとの思いで、地域貢献に尽力をつくっておられます。

対談終了後、今年3月19日国登録有形文化財建造物に選ばれた「甲南漬資料館」を見学しましたが、正面入ってすぐの酒蔵模型は会長自らの手作りとお聞きし、その忠実さと精密さに圧倒されました。

